

トーホクのシカクマメ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4年あける

1. 作物特性

シカクマメはつるを伸ばして成長するマメ科の野菜です。病気や害虫にも強く、菜園だけでなく、グリーンカーテンとしてプランターなどを利用したベランダや庭先での栽培にも適しています。インド、東南アジア各地で広く栽培されていましたが、短日性が強いので国内では花が咲くのが遅く栽培が難しかったのですが、改良が進んで栽培しやすくなってきました。トーホクの品種は、その中でも特に早くから花が咲くように改良されたものだから、安心して栽培できます。

2. 畑の準備

連作は嫌うので3～4年マメ科野菜を作っていない畑を選びます。



3. タネまき

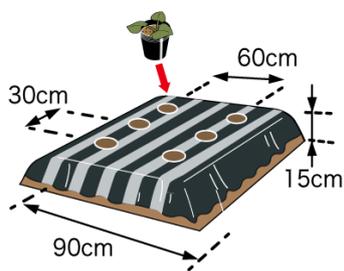
ポットにタネをまいて苗を育てます。発芽適温の地温 25～30℃となるような工夫や、乾燥させないように発芽までは注意



が必要です。本葉が出たら間引きして、元気のいい株を1本残します。

4. 植えつけ

幅90cm 畝高15cm位のうねを立て、マルチを張ります。アブラムシの飛来をできるだけ少なくするためにシルバーラインの入った黒



マルチがおすすめです。約1か月間育てた本葉3～4枚くらいの苗を定植します。平均気温15℃以上で、遅霜の心配がな

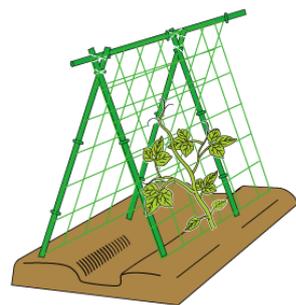


くなってから植えつけましょう。株間は30cmが適当です。ポットがすっぽり入る位に植え穴をあけ、苗を植えます。植えつけた後はしっかりと水を

やりましょう。ネットに絡ませるまでは短い支柱を立て支えます。

5. 栽培管理

なるべく早めに支柱を立ててネットを張り、つるをからませて育てます。支柱は風などで倒れる危険性がありますので丈夫でしっかりと立てます。収穫が始まれば7～10日間隔で1株当たり化成肥料30gを追肥して株の勢いを保ちましょう。肥料が切れるとうどんこ病などの病気にかかりやすくなります。草勢を見ながら定期的に追肥するのが長く収穫するポイントです。



6. 収穫

開花してから10～14日で収穫できます。莢が大きくなると硬くなりますので、莢の長さが10cm未満で収穫します。とり遅れると莢の中の豆が熟して硬くなり、食味が落ちるだけでなく草勢も衰えます。早め、早めの収穫が良いでしょう。



栽培例	まく時期						収かく期					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地						●	●	●	●	●	●	●
中間地					●	●	●	●	●	●	●	●
暖地				●	●	●	●	●	●	●	●	●



<調理例>

シカクマメのサラダ

レシピはトーホクのホームページをご覧ください。